

# ハト対策

これは、平成 15 年(2003)10 月 11 日に NHK の「難問解決 ご近所の底力」という番組で放送されたものです。

7 月 25 日にはタレントの東貴博さんを始めとした NHK のスタッフがスペリア佐屋の現地取材と、8 月 30 日には当時の理事長が NHK のスタジオで収録が行われました。

以上の内容を簡単に紹介したものです。

◆ハトは「平和の象徴」と考えている人も多く、公園や神社・仏閣などでエサを与える光景を見かけることがあります。

しかし、ハトは野鳥で病気や寄生虫を持っていると言われており、特に高齢者や乳幼児などの抵抗力の弱い人は注意が必要です。

◆また、ハトの被害で悩んでいるマンション住民も多くいらっしゃるようです。屋外階段がハトの糞で汚れたりベランダの干し物が汚され、毎日ビニル袋一杯の糞の回収に追われたり、何回も産卵されたりする住戸も珍しくないようです。

◆ハト対策としてベランダに磁石を始めとした「ハト対策グッズ」を置いても 2～3 日間の効果で、再びハトの被害が続いてしまうようです。

そこで、ハトの行動を観察すると多くのハトは建物の屋上に一旦飛来するわけです。

屋上で羽根を休め「9 階にエサがある」とか、「今夜は 10 階のベランダをネグ

ラにしよう」と決めて行動するわけです。

しかし、産卵したハトは同じ場所が安全・安心であることを知っているため、屋上に飛来せず直接産卵した場所へやってきます。

◆一方、ハトは羽根を非常に大切にされています。

羽根が少しでも傷つけば飛べなくなり、命の保証もなくなることを知っているため当然のことかも知れません。

◆ハトは、

**屋上に飛来する。**

**羽根を非常に大切にします。**

これらを逆に利用することが「ハト対策」になるわけです。

◆ハトは屋上の真ん中に止まるより、庇(ヒサシ)やパラペットの端に止まって糞をしたり次の行く先を見極めるようです。

したがって、庇やパラペットの端に糸のような物を張ることが「ハト対策」になるのです。

こうした方法はマンション住民が協力して施工することも可能ですが、専門の業者に発注することも良いでしょう。

◆公園や神社でハトにエサを与えると増え過ぎることになり、全国では許可を得て年に17万羽ぐらいが捕獲して処分されているようです。

人間がエサを与えなければ自然の草や木の実や虫などを食べて生きるため、産卵回数も減るため数も減少するわけです。

エサを与えることは微笑ましく弱者への思いやりと思われませんが、逆に増え過ぎて捕獲・処分されることが現実で、ハトにとっても人間にとっても不幸な結果になってしまうことを自覚し多くの人たちに訴えなければなりません。

### 屋上のパラペットに釣り糸を張った例





釣り糸の施工が難しい場所には「バリア」を取り付ける



# 「釣り糸」の施工法

## はじめに

ハトはマンション等の屋上に飛来し、どこのベランダが安心・安全な場所で休息したり産卵に適當かどうか見定めます。ハトは羽根を非常に大切に作る鳥で、翼に異物が触れることを極端に嫌うようです。したがって、屋上の飛来する場所に釣り糸を張ることは飛来を阻止するためには有効な手段であります。

## 物件例

次のようにマンションの施工例を考えてみましょう。

戸数 100戸(1棟) 11階建て南向き

## 施工場所

北面は共用廊下のため特に被害がない場合の施工は不要で、東面・南面・西面に張る糸の長さは、およそ100mです。

## 材料

13ミリ程度のビニルパイプ	10センチ×50個
プラスチック製の板	50枚
釣り糸	100m程度(5-6号)
強力両面テープ	適當(外部用)
瞬間接着剤	適當
ボンド	適當(プラスチック用)

## 準備作業

1.パイプを10cm程度にカットし50本作る。

- 2.カットしたパイプの8cmのところに糸を通す穴をあける
- 3.パイプの穴を上にしてプラスチック板(携帯電話程度)に瞬間接着剤で固定する。

### **屋上での作業**

- 1.板の裏に両面テープを貼り、設置する面に固定する。
- 2.支柱(パイプと板を接着した物)は糸を張るパラペット等に2m間隔で固定する。
- 3.接着した両面テープが固定したら支柱の穴に糸を通す。なお、糸が緩まないように瞬間接着剤等を塗り固定する。

なお、住民が作業をするには道具もなく危険性も高いので、上記のことをヒントにして建物建築に従事する業者さんに依頼することが望ましいと思います。

屋上へ飛来するハトに対しては、すぐに効果が現れますがベランダ等へ直接飛来するハトは根気に追い払うしかありません。

なお、施工後は年一回程度のチェックが必要で、風雨や積雪により糸が切れたり支柱が外れたりする場合があります。

糸を張ることが困難な場所には画像のような「バリア」が有効です。

以上